

テンダイウヤク(天台烏薬)

クスノキ科 クロモジ属 小高木で雌雄異株 東海地方以西で自生

根は漢方薬で、芳香性健胃薬、鎮痛薬

新鮮な葉をもみ潰して油で炒め、関節リウマチ・打撲傷に種子の油を絞り、灯火用に用いる。

名前の由来は

漢方生薬の漢名『烏薬』と、中国の天台山で良品が取れたので、地名と烏薬を付けたのが《天台烏薬》テンダイウヤクとなった。

この木には伝説があり

秦の始皇帝（前259～前210）が、不老不死の霊薬を探すように『除福』に命じました。命を受けた『除福』は和歌山県熊野新宮で探し当てたのが、テンダイウヤクでした。その時、秦の始皇帝は亡くなっていたので中国に帰ることなく新宮で一生を終え新宮では、『除福』のお墓が残っています。また、新宮市ではこのテンダイウヤクで、町おこしを進めています。

手入れ方法

葉は互生で、花は黄色く大豆のような大きさの実を付けます。

クスノキ科の木なので虫が付きにくい

ヤゴが出やすいので、足元はスッキリと仕立て、樹形の中は小透かしし、風通しを良くして、幹や枝が見えるように透かす。

私とテンダイウヤクとの出会いは

会社勤めの時、新宮の方に海水浴に行ったときに、民宿の主人に一鉢貰ってきたのが、30年立った今でも我家の庭で育っています。

新宮の方では、梅酒の中にテンダイウヤクの葉を入れ、超パワーアップした梅酒『不老不死の梅酒』が売られています。

『テンダイウヤク梅酒』の作り方

4ℓの広口瓶なら、焼酎1.8ℓに対して青梅2kg程度氷砂糖とテンダイウヤクの葉を（なるべく外側に）入れ、空気に触れる部分を少なくして保存しておく。

梅のエキスが程良く抽出され美味しい果実酒が出来そうです。

